

「横須賀市地域福祉計画」等の策定に係る地域別報告会の開催結果について

1 各地区の開催日時・場所

地区	開催日時・場所	参加人数
追浜	12/12(木) 14:00～ 追浜コミセン2階 センター会議室	8人
田浦	11/6(水) 13:30～ 田浦コミセン4階 第2・3学習室	13人
逸見	11/7(木) 13:30～ 逸見コミセン2階 学習室	16人
本庁	12/21(土) 10:00～ 総合福祉会館 第2会議室	19人
上町第一	11/29(金) 10:00～ 横須賀市役所消防局庁舎3階 第2・3会議室	25人
上町第二	11/8(金) 15:00～ 横須賀アリーナ 第1ミーティングルーム	35人
田戸	12/21(土) 13:30～ 田戸親睦会会館	11人
衣笠	12/5(木) 14:00～ 衣笠コミセン4階 第1教室	15人
大津①	11/13(水) 14:30～ 大津コミセン3階 第4～6学習室	37人
大津②	11/15(金) 10:45～ 大津地区ボラセン	10人
浦賀	12/3(火) 10:30～ 浦賀コミセン2階 会議室	19人
久里浜	12/4(水) 14:30～ 久里浜コミセン3階 第1学習室	27人
北下浦	12/19(木) 15:00～ 北下浦コミセン2階 第1・2学習室	19人
武山	11/20(水) 14:00～ 武山市民プラザ2階 会議室A・B	6人
長井	11/26(火) 18:00～ 長井コミセン2階 第2会議室	9人
大楠	11/20(水) 10:00～ 西コミセン2階 第3学習室	9人
合計		278人

※ 原則、地区社会福祉協議会単位で開催。

※ 港南、中央、安浦、よこすか海辺ニュータウン、三春町地区については、「本庁地区」として一括で開催。

※ 大津地区は要望により2回開催。

※ 開催時間は、概ね1時間半。

2 参加団体等

- ・ 地区社会福祉協議会、市連合町内会、地区民生委員児童委員協議会、地域包括支援センター、障害者相談サポートセンター
- ・ その他、地域で活動している団体や地域にお住まいの市民の方にもご参加いただくため、市ホームページで周知しましたが、参加希望はありませんでした。

3 報告会の内容

- (1) 横須賀市地域福祉計画についての説明
- (2) 横須賀市社会福祉協議会アクションプランについての説明
- (3) 令和5年度地域別意見交換会、市民アンケート調査結果
- (4) 意見交換・質疑等

4 地域別報告会における参加者からの意見（抜粋）

※文末にある（ ）内は各地区を表す。

（１）地域福祉計画、地域別報告会について

- ・ 各地区でこの報告会を開催して、私たちに何を伝えたいのか。計画自体が抽象的な内容が多いので、その説明をされても、具体的にどうするのか、どういうことを求めているのかが分からない。（逸見）
- ・ 今回の地域別報告会について、こういった場は大切だと思う。また是非やってほしい。（逸見）
- ・ 計画は重要だが、誰がこの計画を推進していくのか。市職員の意識も高めてもらいたい。（上町第一）
- ・ 今回の計画は市と市社協が一体となって策定したということなので、地区社協としてもこの計画の内容を参考に目標を決めたいと思う。やはり地域が一丸となるためには目標が必要。こういった計画ができたことが一步前進だと思う。（上町第二）
- ・ もっと地域の実情を把握して計画に組み込まないと、計画の意味がないのではないか。（衣笠）
- ・ 「誰も一人にさせないまち 横須賀」という基本理念はよいと思うが、「一人がよい」という人もいる。おせっかいは難しい。（大津）
- ・ 「適度なおせっかい」は重要だと思う。もっと周知してほしい。（大津）
- ・ 基本理念に「誰も一人にさせないまち 横須賀」とあるが、こういった経緯でこの基本理念になったのか。議論の過程を知りたい。（浦賀）
- ・ 「適度なおせっかい」は難しい。市から地域に適度なおせっかいの例を示してほしい。（久里浜）
- ・ 地域の集まりに市や市社協の職員を呼んでほしいという話があったが、実際には職員の負担になるのではないかと思い、声をかけづらい。（武山）
- ・ 計画の説明を聞いて、福祉の世界地図のようなイメージを持った。（長井）

（２）市社協、市社協アクションプランについて

- ・ アクションプランの中に新規事業として「障害児通学支援の検討」とあるが、これについては既存のサービスだけでは厳しい状況になっている。子どもたちにとっても、選択肢が増えると思う。考える機会を作ってもらえてありがたい。（追浜）
- ・ 社協の財政状況が赤字になっていることで、地区への助成金が減ってしまうのではと懸念している。助成金が減ると活動ができなくなってしまう。（田浦、本庁、田戸、大津、浦賀、大楠）
- ・ 市役所の公式LINEに登録するとリアルタイムの配信がされるので、この情報を基に興味がある事をネットで調べている。市社協にもこういった情報発信をしてほしい。（大津）
- ・ アクションプランは誰がどのようにやるのか。民生委員も一人暮らしの見守りだけで大変なのが実情である。（長井）

(3) 令和5年度地域別意見交換会、市民アンケート調査結果について

- ・ 田浦地区、長浦地区は、人口に対して意見交換会への参加者が少ない。これで地域の意見を集約したと言えるのか。(田浦)
- ・ 市民アンケートについて、高齢になるほど「今の場所に住み続けたい」という意見が多いとのことだが、高齢者の立場で考えれば、引っ越しは面倒なので、今の場所に住み続けたいという意見が多いのは当たり前ではないか。アンケートの結果を行政が恣意的に判断しているようにも感じる。(田浦)
- ・ 戸建に住んでいるか、集合住宅に住んでいるかで、福祉や地域活動に対する関心度が大きく異なると思う。アンケート結果について、年代ごとに分析しているものはあるが、戸建てか集合住宅かでも分析した方がよいのではないか。(本庁)
- ・ 「横須賀市はどのようなまちだと思うか」という設問について、「高齢者が暮らしやすいまち」が「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」の割合が最も多いが、それでも34%に過ぎず、他の設問ではそれ以下になっている。これは市民が満足していない証拠だと思う。(衣笠)
- ・ 市民アンケートの結果は分かったが、なぜそのような結果になったのかという部分も分析して示してほしい。(武山)

(4) 地域活動について

① 地域の担い手不足について

- ・ 民生委員も社会福祉推進委員も担い手がいらない。(浦賀)
- ・ 町内会役員、民生委員のなり手の不足がある。住民が高齢化し、手助けしなければならぬ人が増える中、地域でどう手助けをしていくのか整理したい。(浦賀)
- ・ 民生委員を町内会・自治会長が見つかるのが難しいというのは、地域の方と知り合うきっかけがないからだ。そういう機会を作してほしい。(浦賀)
- ・ 多様な担い手の育成とあるが、地域の中で助け合いをする人の養成をどうしていくのか。助けたい人を見つけて、活動に結び付けることが必要だと思う。(浦賀)
- ・ ボランティアの高齢化が進んでいる。このままではこの仕組みを続けていくのは難しくなるので、もっと具体的な取り組みを打ち出さないといけないと思う。(北下浦)
- ・ 民生委員の選出に苦労している。町内会長だけで選出するのは難しいが、市に選出してもらいたいと思う。(大楠)

② その他

- ・ マンションなど集合住宅に住んでいる人は災害時の手助けは不要と思っている人が多い。近所付き合いも希薄である。(本庁)
- ・ 町内会・自治会や民生委員の活動が地域で理解してもらえていない。活動の内容をもっと周知していく必要があると思う。(上町第二)
- ・ 災害時には若い人の助けが必要。(大津)
- ・ 地域とのつながりが薄れてきている。それに対して市はどのような施策をするのか。顔の見える関係の大切さを市はどう考えているのか。(長井)

(5) 町内会・自治会について

- ・ マンションの人は町内会に加入しない人が多い。(本庁)
- ・ 町内会・自治会は役員や当番などがあり、年齢を理由に退会する人が多い。町内会未加入者には市の広報紙も配布されない。これでは、高齢者に福祉の情報などは届かないので、町内会・自治会以外の別のルートを作してほしい。(大津)
- ・ 町内会未加入者の情報については、民生委員も把握できない。(久里浜)
- ・ 高齢者が多くなり、班長・組長を務められないからという理由で町内会を辞めてしまう方が増えている。現状は町内会に加入するメリットがない。メリットを打ち出す必要があると感じている。(武山)

(6) 民生委員児童委員・社会福祉推進委員について

- ・ 民生委員活動が町内の人に伝わっていないと思う。住民の認識が変わるような啓発活動をしてほしい。(逸見)
- ・ 町内会の役職に民生委員が就く役職を設ければ、民生委員と町内会がもっと連携がしやすくなると思う。(上町第二)
- ・ 民生委員の高齢者の見守りについて、65歳だと「まだ見守りは不要」、「まだ早い」と言われる。見守りの対象年齢上げてほしい。(久里浜)
- ・ 市は高齢者の情報を把握しているので、民生委員に情報提供してほしい。(久里浜)
- ・ 市から高齢者の情報提供を受けると、提供された高齢者全員について民生委員が気に留めなければならなくなってしまう。それはそれで民生委員の負担増になるという懸念がある。(久里浜)
- ・ 町内会・自治会への入会は任意だが、若い人を中心に未加入者が多い。未加入にもかかわらず、困った時だけすぐに来てほしいという、勝手な人が増えている。そういう人に対しても民生委員や社会福祉推進委員は対応しなければならないため、非常に負担を感じる。(北下浦)
- ・ 民生委員や社会福祉推進委員の活動は基本的にはボランティアだが、活動費をもらっているのだから、ちゃんと対応してほしいと言う人もいる。仕事なのか、近所付き合いなのか、線引きが曖昧になってきている部分もある。(北下浦)

(7) 地区社協、地区ボランティアセンターの活動について

- ・ 地区ボラセンに有償ボランティアを取り入れると、地域の支え合い団体の活動についても地区ボラセンが窓口になれる。(追浜)
- ・ 社協の財政のことを考えると、地区ボラセンは本当に必要なのかと思ってしまう。(大津)
- ・ 社会福祉推進委員になって、初めて地区ボラセンの存在を知った。コミュニティセンターとボランティアセンターの違いも分かっていない人が多い。(大津)
- ・ 地区ボラセンの人員体制の見直しが必要だと思うが、コーディネーターの報酬は時給に換算すると、神奈川県最低賃金の基準に満たないため、良い人材がいても条件が合わず採用できない。(大津)

- ・ ボラセンの活動費の基準や人員の適正配置基準を示してもらいたい。(大津)
- ・ いくつかの地区ボラセンを統合したら家賃代などの経費が節減できるのではないかと思う。(大津)
- ・ 赤い羽根共同募金や寄付金などの多くは高齢者が出してくれているが、それにもかかわらず、地区社協という存在が高齢者や住民に伝わっていない。(大津)
- ・ 無償で活動するのは費用面などでなかなか難しい部分がある。依頼する側も有償の方が頼みやすいという声も地域の中にはある。(北下浦)

(8) その他

- ・ 横須賀市役所は暗い。市民が集まる場所として明るい空間にした方がよい。(本庁)
- ・ 行政の資料は文章が難しい。もっと優しい日本語で書いてもらいたい。(上町第一)
- ・ 市でA Iなどを活用し 24 時間の相談受付を出来ないのか。現在、市が実施しているLINE相談では、回答がすぐに来ない。A Iなどを活用して、すぐに回答がくるようになるとうい。(上町第二)
- ・ 行政センターがある地区と異なり、本庁地区は相談窓口が分かりにくい。もっと分かりやすくしてほしい。(田戸)
- ・ 生活支援コーディネーターを複数名体制にしてもらい、活動の場を充実させてほしい。(大津)
- ・ 街頭募金活動をする場所をもっと増やしたい。(大津)
- ・ 地域に商店が少なく、買い物に困っている高齢者が多い。(大津)
- ・ 「スモールアクション」について、もっと市民が分かるように広報してほしい。(大津)
- ・ 人口増や横須賀市に来てくれる人を増やすためにも、地域福祉を進めることと並行して、地域を活性化していく必要がある。(大楠)